

中小企業景況レポート vol.50

2017.1~3

業況判断D I 1月~3月は低下し2期ぶりのマイナス

【2017年1月~3月期の業況判断D I】

今回調査期間における全業種総合の業況判断D Iは前回調査比で2.1ポイント低下し△2.1となりました。前回調査比で製造業、卸売業、不動産業は上昇しましたが、小売業、サービス業、建設業で低下し、全業種総合においても低下となり2期ぶりのマイナスとなりました。

【2017年4月~6月期の予想業況判断D I】

次回調査期間の業況判断D Iは全業種総合で1.2(今回調査比3.3ポイント上昇)となっています。卸売業が20ポイント超、サービス業が10ポイント超の大幅上昇予想であり、他の業種においても小売業以外はD Iがプラス予想で、全業種総合の業況判断D Iもプラス予想となっています。

業種名	時期	2016年 10月~12月	2017年 1月~3月		2017年 4月~6月 (見通し)	
全業種総合		☁ 0.0	➡ △2.1	☁ △2.1	➡ 3.3	☁ 1.2
製造業		☁ △2.5	➡ 7.5	☁ 5.0	➡ 2.7	☁ 7.7
卸売業		☂ △36.4	➡ 9.1	☂ △27.3	➡ 27.3	☁ 0.0
小売業		☁ △5.5	➡ △2.5	☁ △8.0	➡ △5.2	☂ △13.2
サービス業		☁ △1.4	➡ △4.6	☁ △6.0	➡ 10.5	☁ 4.5
建設業		☁ 22.2	➡ △12.7	☁ 9.5	➡ △8.0	☁ 1.5
不動産業		☂ △11.1	➡ 11.1	☁ 0.0	➡ 5.6	☁ 5.6

景況
天気図
の目安

D I
好調 ←

30
以上
☀

10以上
30未満
☁

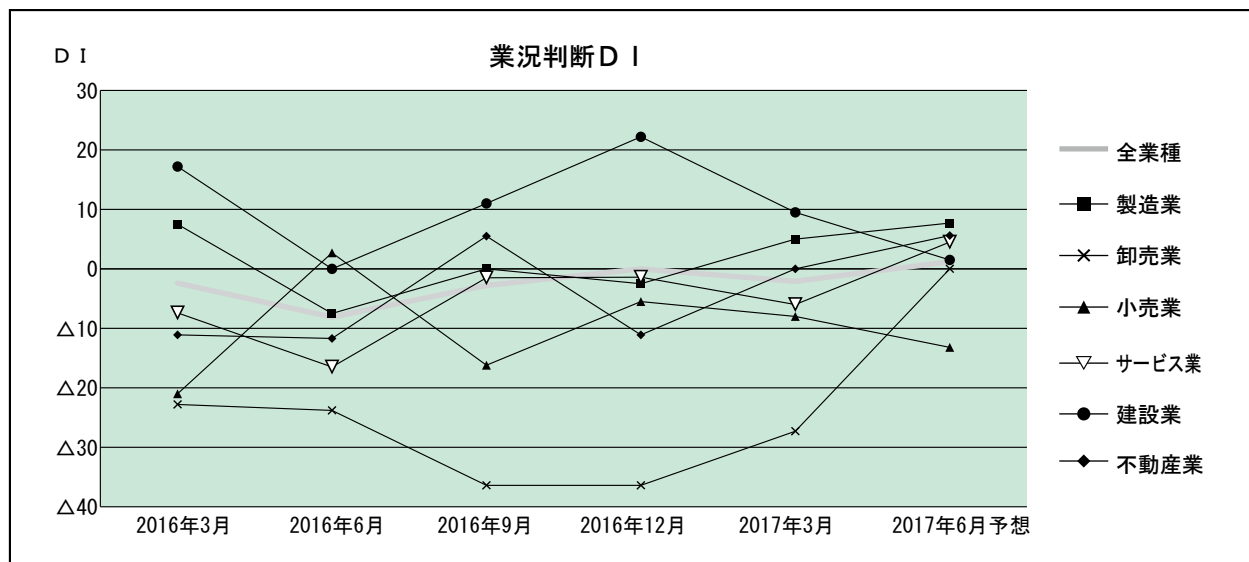
0以上
10未満
☁

△10以上
0未満
☁

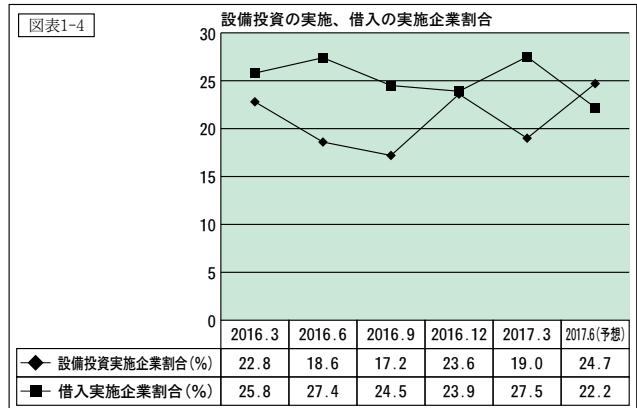
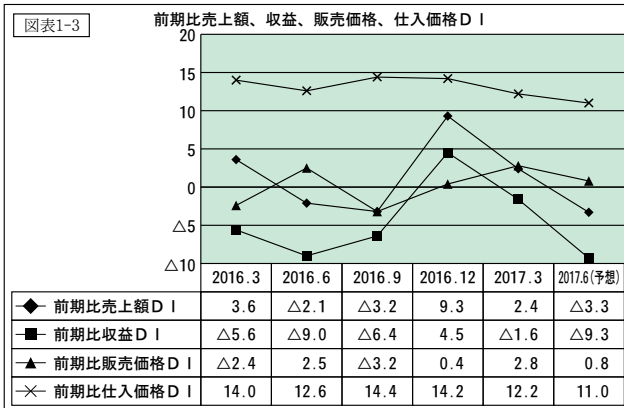
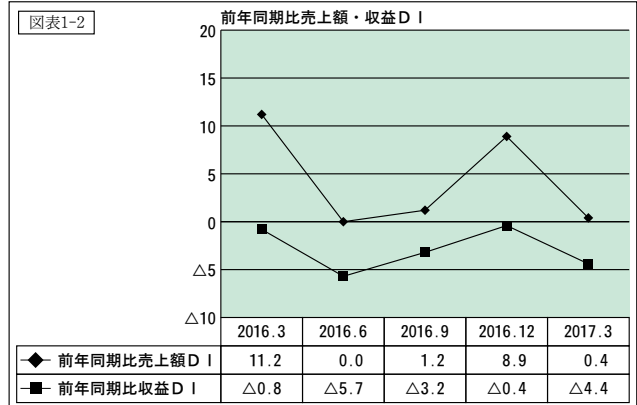
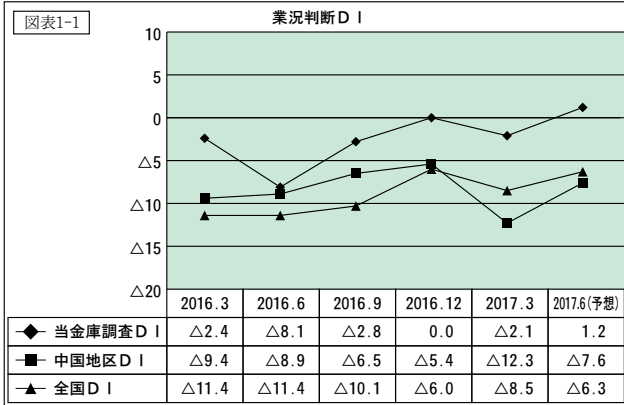
△30以上
△10未満
☂

△30
未満
☂

→ 低調



全業種総合



景況 ～業況判断D I 低下し2期ぶりのマイナス～

今期の業況判断D Iは全業種総合で前回調査比**2.1ポイント低下**し0.0→△2.1となりました(図表1-1)。前回調査比で建設業が10ポイント超の大幅低下となり、全業種総合の業況判断D Iを押し下げる要因となりました。今回調査にてD Iはマイナスとなったものの、中国地区D I(△12.3)、全国D I(△8.5)と比較して、当金庫調査エリアの景況感が高めに推移しています。

次回調査期間(2017年4月～6月)の業況判断D Iは△2.1→1.2と今回調査比**3.3ポイントの上昇予想**で、D Iもプラス予想となっています。

前年同期比売上額D Iは0.4、同収益D Iは△4.4となっており、1年前と比較して売上は回復していますが収益性は依然厳しい状況であることが窺えます(図表1-2)。また、前回調査との比較である前期比売上額D Iは2.4とプラス、同収益D Iは△1.6とマイナスであることから、一定の売上は確保できているものの、利幅を確保しにくい状況であることが窺えます(図表1-3)。

今回調査期間で設備投資を実施した企業の割合は19.0%となり、前回調査比で4.6ポイントの低下、借入を実施した企業の割合は27.5%と前回調査比3.6ポイントの上昇となりました。

また、設備投資を予定している企業の割合は24.7%であり今回調査比で5.7ポイントの上昇、借入を予定している企業の割合は22.2%と今回調査比5.3ポイントの低下となっています(図表1-4)。また、設備状況の見通しを「やや不足」「不足」と判断している企業のうち、設備投資をおこなわないと回答している企業が33.3%と前回調査比14.8ポイントの低下となっており、設備投資に前向きな兆しが出てきていることが窺われます。

おかやま信用金庫からのお知らせ

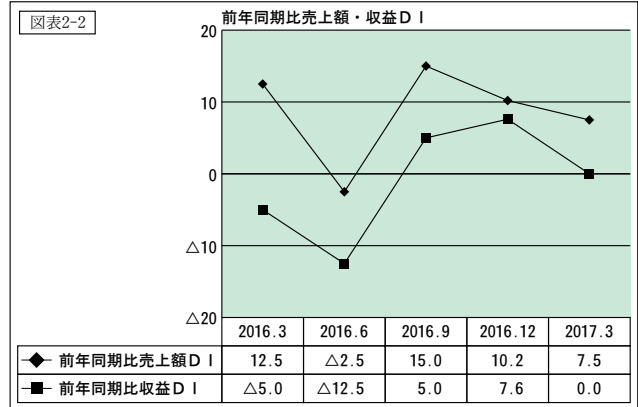
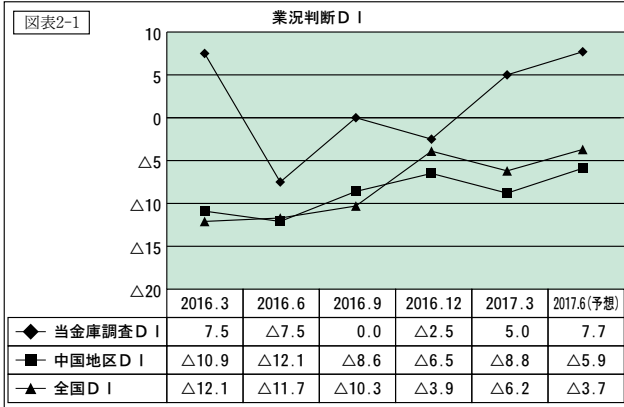
「おかやましんきん職域サポート契約」制度のご案内

「おかやましんきん職域サポート契約」は、ご契約いただくと、当該事業所で働いていらっしゃる役員、従業員の皆様、当金庫の指定するローン商品を優遇金利にてご利用いただける制度です。ぜひ貴社の福利厚生サービスの一環として、本制度をご活用ください。

- ◆ 契約要件
 - ・当金庫営業区域内にある法人(個人事業主は不可)
 - ・当金庫との取引の有無は問いません
- ◆ 利用いただける従業員の方の要件
 - ・契約締結事業所の代表者、役員および従業員(非正規雇用者も含む)
 - ・申込時年齢が20歳以上
- ◆ 契約期間
 - ・原則1年の自動更新

対象となるローン商品等、詳しくは各支店の担当者、もしくは営業支援部(086-223-7672)までお問い合わせください。

製造業



景況 ～今期上昇 来期も上昇の予想～

今期の業況判断D Iは△2.5→5.0と前回調査比**7.5ポイントの上昇**となりました（図表2-1）。

来期の予想業況判断D Iは5.0→7.7と**2.7ポイントの上昇予想**となっており、景況感は比較的高いものの、5月10日に発表された岡山県金融経済月報（以下、「日銀月報」）では、岡山県内の生産は「減少している」との判断であり、今後のD I推移に注意が必要です。

前年同期比売上額D Iはプラスですが、同収益D Iが0.0となっており（図表2-2）、収益性の改善が今後の課題と思われれます。

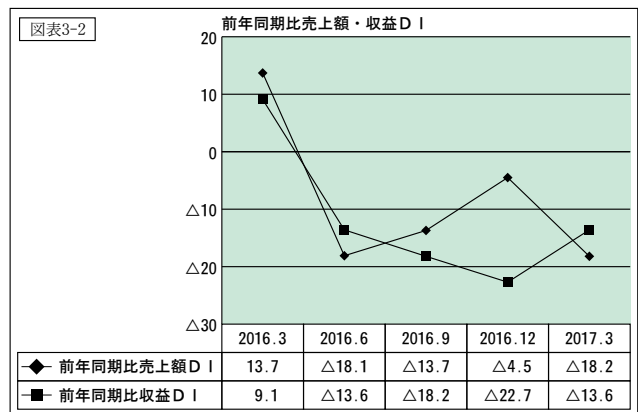
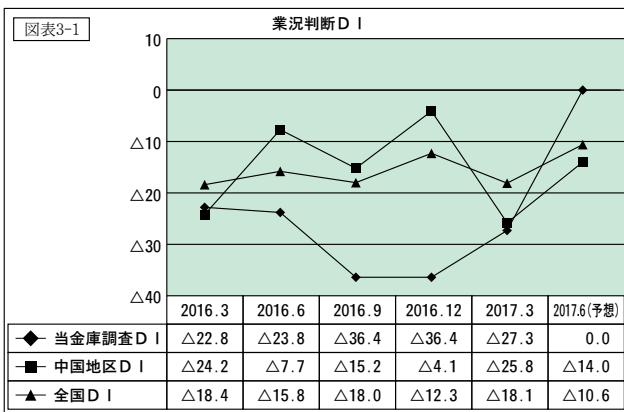
経営上の問題点では、「売上の停滞・減少」の回答率が上昇しており、D Iはプラスですが、同業種内の業態によって景況感にばらつきがあると考えられます。また、他の業種同様に人手不足が慢性化しています。

経営上の問題点・当面の重点経営施策

※色付きは前回より回答率が上昇した項目(10ポイント以上上昇は濃)

経営上の問題点	1		2		3	
	回答内容	回答率	回答内容	回答率	回答内容	回答率
経営上の問題点	売上の停滞・減少	42.5%	人手不足	30.0%	同業者間の競争の激化	27.5%
当面の重点経営施策	販路を広げる	47.5%	経費を節減する	37.5%	新製品・技術を開発する 人材を確保する	17.5% 17.5%

卸売業



景況 ～今期上昇 来期は大幅上昇の予想～

今期の業況判断D Iは△36.4→△27.3と前回調査比**9.1ポイントの上昇**となり、中国地区D I（△25.8）、全国D I（△18.1）に近づくまで回復しています（図表3-1）。また、来期の予想業況判断D Iは今回調査比で**27.3ポイントと大幅に上昇**し、0.0となる予想です。

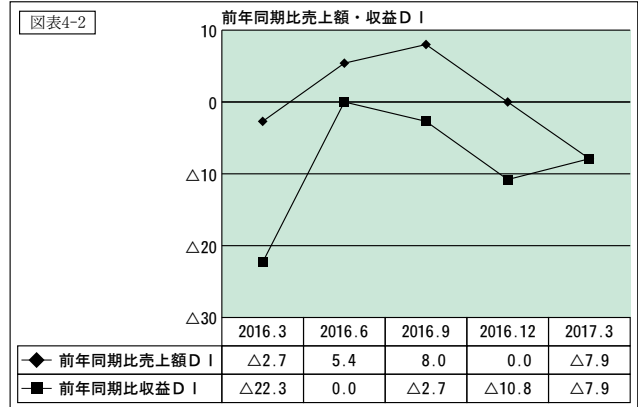
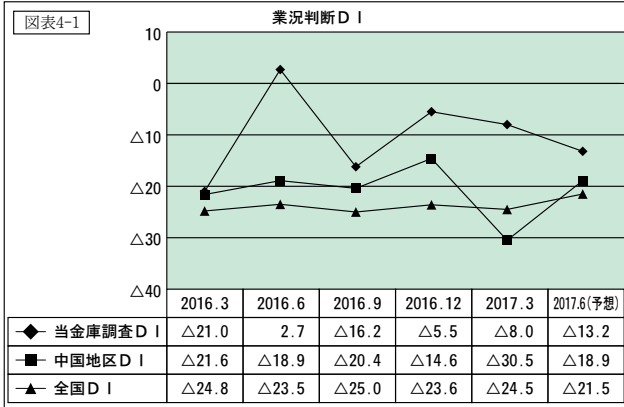
「日銀月報」では岡山県内の個人消費は「底堅く推移」との判断が続いており、卸売業においても一時期に比べ景況感が良化傾向にあります。前年同期比売上額D I、同収益D I共にマイナスであり（図表3-2）、経営上の問題点における「売上の停滞・減少」との回答率が大幅に上昇していることから、本格回復に向けた強調材料には乏しい状況です。

経営上の問題点・当面の重点経営施策

※色付きは前回より回答率が上昇した項目(10ポイント以上上昇は濃)

経営上の問題点	1		2		3	
	回答内容	回答率	回答内容	回答率	回答内容	回答率
経営上の問題点	売上の停滞・減少	63.6%	同業者間の競争の激化	50.0%	利幅の縮小	13.6%
当面の重点経営施策	販路を広げる	68.2%	経費を節減する	54.5%	情報力を強化する	31.8%

小 売 業



景 況 ～今期低下 来期も低下の予想～

今期の業況判断D Iは△5.5→△8.0と前回調査比2.5ポイントの低下となりました（図表4-1）。また、来期の予想業況判断D Iは△8.0→△13.2と5.2ポイントの低下予想となっています。

「日銀月報」では、岡山県内の個人消費は「底堅く推移」、百貨店・スーパー売上高は「持ち直し」との判断であります。経営上の問題点において「大型店との競争激化」との回答率が上昇しているように、地元の小売店においては厳しい状況が続いているようです。

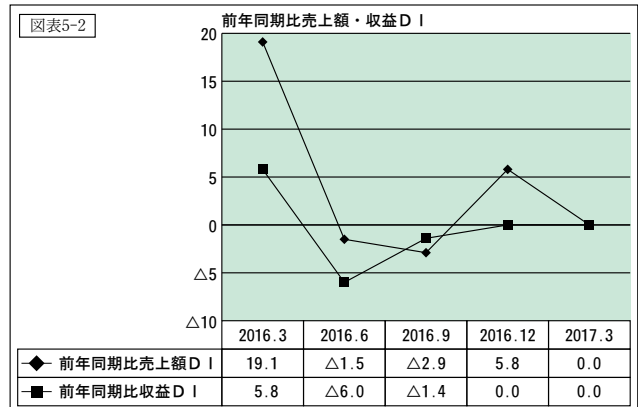
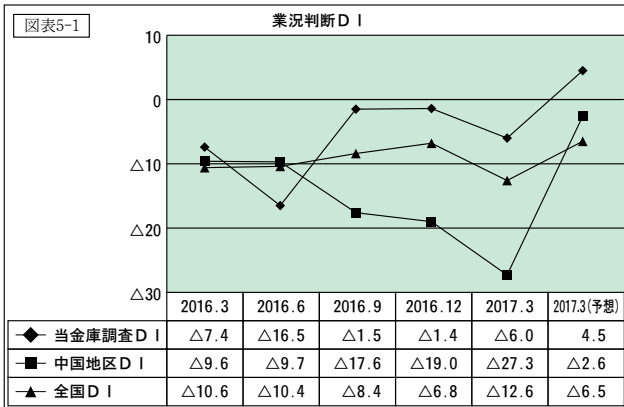
経営上の問題点では「人手不足」の回答率が前回調査比で10.0ポイントの大幅上昇と、深刻さが増しています。

経営上の問題点・当面の重点経営施策

※色付きは前回より回答率が上昇した項目(10ポイント以上上昇は濃)

経営上の問題点	1		2		3	
	回答内容	回答率	回答内容	回答率	回答内容	回答率
経営上の問題点	売上の停滞・減少 同業者間の競争の激化	39.5% 39.5%	人手不足	28.9%	大型店との競争激化	26.3%
当面の重点経営施策	経費を節減する	47.4%	販路を広げる 売れ筋商品を取り扱う	39.5% 39.5%	宣伝・広告を強化する	26.3%

サービ ス 業



景 況 ～今期低下 来期は大幅上昇の予想～

今期の業況判断D Iは△1.4→△6.0と前回調査比4.6ポイントの低下となりました（図表5-1）。なお、来期の予想業況判断D Iは△6.0→4.5と10.5ポイントの大幅上昇予想となっています。

また、前年同期比売上額D I、同収益D Iは、ともに0.0となっています（図表5-2）。

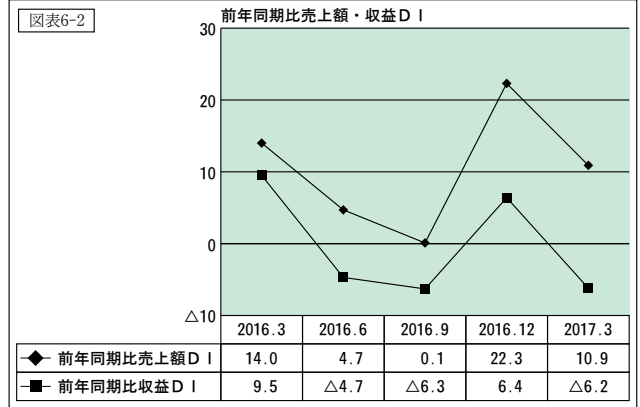
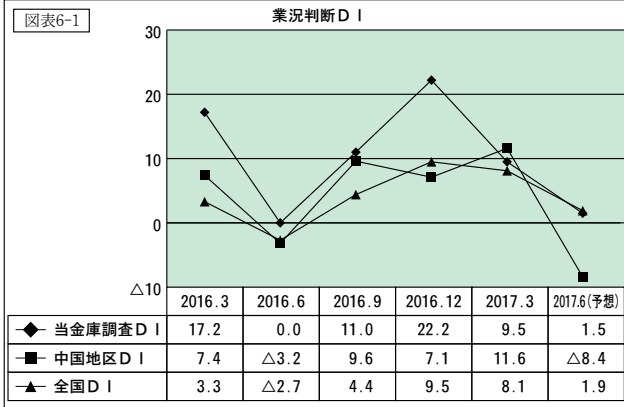
サービス業においては人手不足の状態が慢性化しており、当面の重点経営施策においても「人材を確保する」との回答率が3位となっています。

経営上の問題点・当面の重点経営施策

※色付きは前回より回答率が上昇した項目(10ポイント以上上昇は濃)

経営上の問題点	1		2		3	
	回答内容	回答率	回答内容	回答率	回答内容	回答率
経営上の問題点	売上の停滞・減少	47.8%	同業者間の競争の激化	29.9%	人手不足	28.4%
当面の重点経営施策	経費を節減する	43.3%	販路を広げる	35.8%	人材を確保する	26.9%

建設業



景況 ～今期大幅低下 来期も低下の予想～

今期の業況判断D Iは22.2→9.5と前回調査比12.7ポイントの大幅低下となりました（図表6-1）。建設業は他業種に比べ景況感が高めに推移していますが、来期の予想業況判断D Iも9.5→1.5と8.0ポイントの低下予想となっており、足踏み感が出ています。岡山県南部における大型病院の建設ラッシュがひと段落したこと、公共投資が弱含んでいること（「日銀月報」より）、原材料費の高止まりなどが要因と考えられます。

また、前年同期比売上額D Iは10.9とプラスですが収益D Iが△6.2と収益性が悪化しています。

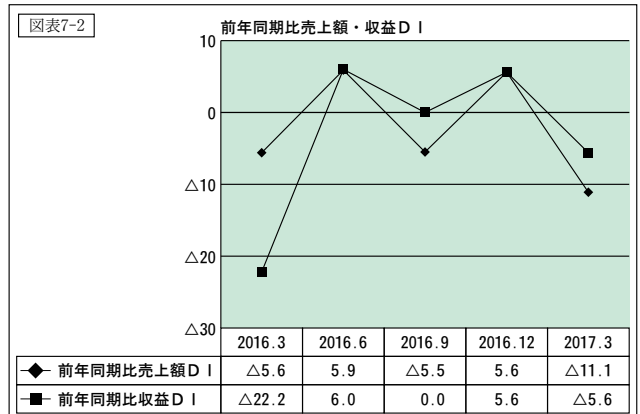
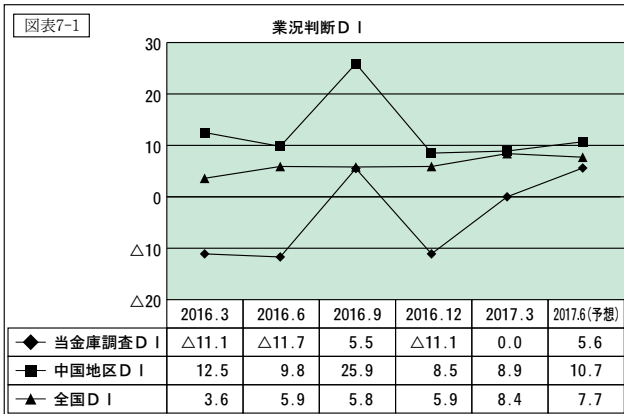
経営上の問題点では「人手不足」との回答率が上昇しているように、他業種と同じく人員の確保に苦慮している先が多く存在します。

経営上の問題点・当面の重点経営施策

※色付きは前回より回答率が上昇した項目(10ポイント以上上昇は濃)

	1		2		3	
	回答内容	回答率	回答内容	回答率	回答内容	回答率
経営上の問題点	人手不足	34.4%	同業者間の競争の激化	33.8%	売上の停滞・減少	28.1%
当面の重点経営施策	販路を広げる	48.4%	経費を節減する	39.1%	人材を確保する	32.8%

不動産業



景況 ～今期大幅上昇 来期も上昇の予想～

今期の業況判断D Iは△11.1→0.0と、前回調査比11.1ポイントの大幅上昇となりました（図表7-1）。また、来期の予想業況判断D Iも0.0→5.6と5.6ポイントの上昇予想となっています。

一方で、前年同期比売上額D I、同収益D Iともにマイナスとなっており、市場は活発になっているものの、売上・収益性とも厳しい状況には変わりありません（図表7-2）。要因のひとつとして経営上の問題点において回答率が大幅に上昇している「大手企業との競争激化」が考えられます。

経営上の問題点・当面の重点経営施策

※色付きは前回より回答率が上昇した項目(10ポイント以上上昇は濃)

	1		2		3	
	回答内容	回答率	回答内容	回答率	回答内容	回答率
経営上の問題点	同業者間の競争の激化 商品物件の不足	38.9% 38.9%	大手企業との競争の激化	33.3%	売上の停滞・減少	22.2%
当面の重点経営施策	情報力を強化する	38.9%	販路を広げる	33.3%	不動産の有効活用を図る	27.8%

調査先企業の声

製造業

- ・積極的な研究開発が功を奏し、自社製品が業界内で普及しつつあるため、更なる販路開拓を目指す。（コンクリート製品製造）
- ・受注先からの加工費値下げ要請があり利益率が低下傾向にある。このため生産ラインを見直し、ムリ・ムダ・ムラを排除して生産性向上を図っている。（金属加工）
- ・わが社は老舗洋菓子店であり、昔から女性が活躍できる業種であった。毎年料理学校から数名採用しており、地域のためのお店として営業している。（菓子製造）

卸売業

- ・岡山県南での大規模病院の建設ラッシュが終了したこともあり建設業界の仕事も減少している感がある。今後の動向が不透明と感じている。（断熱材卸）
- ・消費税増税までの駆け込み需要や住宅金利低下などの要因で、しばらくは住宅取得需要の高い状態が続くものと思われる。（木材卸）

小売業

- ・大手ディーラーとの競争に勝つため、きめ細やかなアフターフォローをおこない、顧客を確保している。（自動車小売）
- ・家庭的な職場環境となるように努めており、約3割いる女性社員に店舗ディスプレイを任せるなど全員で盛り上げていく風土を作っている。（家電小売）
- ・本業であるギフト販売はジリ貧であるため、新規事業として介護事業に取組んでおり、もう一つの経営の柱として育てていきたい。（ギフト販売）

サービス業

- ・競争が激しい飲食業界において、素材にこだわり、本当に良いものを提供し続けることで固定客を確保している。喫緊の課題は人材確保である。（飲食店）
- ・特殊な業務であり専門的な知識が必要となるため良い人材がなかなか確保できない。人の問題はかなり深刻である。（ソフト開発）
- ・介護事業に加え、新事業としてペット用の服やグッズを手掛けるようになった。今後はこのペット関連事業を拡大させていく方針である。（介護サービス）

建設業

- ・代表者自ら営業に出るなど社員一丸となって売上の増加に尽力している。その甲斐あって比較的利益率の良い小口の工事を多数受注できるようになった。（総合建設）
- ・永年塗装業を営んでおり、県内外から広く工事を受注している。人材の確保、育成が今後の課題である。（塗装工事）
- ・橋梁の建設が主業であるため競争は少ないが、他業態と同じく受注単価が下落している。発注側は技術力などをもっと考慮してほしい。（建設）
- ・マンションの内装を得意としているが、若い人材の確保と技能承継に苦労している。（左官）

不動産業

- ・不動産業に加え、新規事業としてリサイクルショップを始めた。昨今の情勢では可能な範囲での事業の多角化が必要と感じている。（不動産売買）
- ・不動産賃貸は場所にもよるが供給過剰となっている。家賃を安くするだけでなく、独自性を出した経営が必要と感じている。（不動産賃貸）

平成29年度 おかやましんきん地域活性化支援制度 “エリアサポート” 募集のご案内

岡山発のブランド創出、地域の活性化と発展に貢献することを目的とした「おかやましんきん地域活性化支援制度“エリアサポート”」の平成29年度の募集を6月1日（木）より開始いたします。下記の趣旨をご理解いただき、奮ってご応募ください。

記

1. 「おかやましんきん地域活性化支援制度“エリアサポート”」とは...

創業または新商品・新サービスの開発、販路拡大、海外進出などの独自性・成長性のある事業に取り組む事業者を支援することによって、岡山発のブランド創出、地域経済の活性化と発展に貢献することを目的とした助成金制度です。

2. 募集期間

平成29年6月1日（木）～ 7月31日（月）

3. 対象先

原則として、当金庫の営業エリア内で、以下の事業を営む法人・個人事業主を対象とします。
※同一の事業者が、過去のエリアサポートにおいて助成対象となった事業内容で再度応募することはできません。

(1) 創業

(2) 新商品・新サービスの開発

(3) 販路拡大

4. 助成金額

応募事業の活動に要する経費の50%以内で、10万円以上100万円以下とします。

5. 募集開始から贈呈式までのスケジュールについて

募集期間	平成29年 6月1日（木）～7月31日（月）
一次審査期間（書類審査）	平成29年 8月上旬～9月下旬
一次審査の結果通知	平成29年10月中旬
二次審査の事前説明会	平成29年11月中旬（当金庫7階大ホール）
二次審査会の実施（プレゼンテーション審査）	平成30年 1月下旬（当金庫7階大ホール）
二次審査の結果通知	平成30年 2月下旬
助成金贈呈式の開催	平成30年 3月下旬（当金庫7階大ホール）

6. 応募方法

応募用紙の各項目をもれなく記入のうえ、必要書類を添付して当金庫各営業部に提出してください。

※応募用紙等のダウンロード、提出書類の詳細は当金庫ホームページをご覧ください。

ホームページアドレス・・・http://www.shinkin.co.jp/okayama/business/area_support/

7. その他

ご不明の点につきましては、各営業部店担当者または下記事務局までお問い合わせください。

以上

お問い合わせ先

おかやましんきん地域活性化支援制度“エリアサポート”事務局

おかやま信用金庫 営業支援部 担当：小倉

TEL：086-223-7672 FAX：086-226-2288 e-mail：sien@okayama.shinkin.jp

調査の要領

- 1) 調査時点 2017年3月1日～7日
 2) 調査対象期間 2017年1月～3月(3月については感触)
 3) 調査対象 250企業(有効回答数249企業・回答率99.6%)
 4) 調査方法 おかやま信用金庫各営業部店の調査員による面談での聞き取り調査
 5) 分析方法 各質問事項で「良い」(上昇)とした企業が全体に占める構成比と、「悪い」(低下)とした企業の構成比との差(判断D I)を中心に分析
 ※D I=ディフュージョン・インデックスの略
 一般にプラスは好調、マイナスは不調を示す(仕入価格D Iについては逆)
 6) その他 全国D Iならびに中国地区D Iは、全国の信用金庫が中小企業約16,000先を対象として調査し、信金中央金庫が取りまとめた数値を使用

(単位:先、%)

	製造業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業
回答企業数	40	22	38	67	64	18
回答率	100.0	100.0	100.0	98.5	100.0	100.0

従業員数

(単位:先)

業種 (単位:人)	製造業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業	計	構成比
0～9	22	15	30	47	48	17	179	71.9%
10～19	7	4	4	9	13	1	38	15.3%
20～29	5	1	2	6	2	0	16	6.4%
30～49	1	0	1	1	1	0	4	1.6%
50以上	5	2	1	4	0	0	12	4.8%
計	40	22	38	67	64	18	249	100.0%
構成比	16.1%	8.8%	15.3%	26.9%	25.7%	7.2%	100.0%	

資本金等

(単位:先)

業種 (単位:千円)	製造業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業	計	構成比
10,000未満	19	7	23	36	32	8	125	50.2%
10,000～49,999	18	15	14	28	32	10	117	47.0%
50,000～99,999	3	0	1	2	0	0	6	2.4%
100,000以上	0	0	0	1	0	0	1	0.4%
計	40	22	38	67	64	18	249	100.0%
構成比	16.1%	8.8%	15.3%	26.9%	25.7%	7.2%	100.0%	

お客さまへのインタビュー

岡山市で電気工事業を営んでいる事業者様にインタビューをおこないました。

～事業の内容・現状について～

当社は岡山市内にて電気設備工事業を営んでいます。近年岡山ではイオンモール岡山の開店や病院の建設ラッシュなど、同業界では特需とも言えるほどの受注量を抱えていましたが昨年後半から落ち着き、今後も目立った大型の案件もないため、先行きに若干の不安を感じています。

～当面の重点施策について～

人材の育成が急務です。熟練技術者のノウハウを、いかに若い技術者に伝えるかが今後の発展成長に大きく関与してくることは理解しています。現場でのOJTに加え、様々な場面を想定しての模擬実習などをおこなっていますが、時間も多くは取れなく苦慮しています。併せて、若い技術者を繋ぎとめておくためにわが社独自の「働き方改革」も進めていかなければならないと感じています。

～将来像～

工事ひとつひとつを丁寧に仕上げるのが信頼に繋がります。比較的大きな規模の工事を中心におこなっていましたが、地元工務店との連携を図り個人住宅関連にも携わりたいと考えています。小規模な会社ですので、今まで以上に地域に根差した、地域の方に愛される企業として成長したいと考えます。

編集後記

今回調査で全業種総合の業況判断D Iは $\Delta 2.1$ と2期ぶりにマイナスとなりました。業種による景況感のばらつきは縮小した感がありますが、前回調査同様、卸売業、小売業、サービス業といった個人消費に直結する業種のD Iがマイナスとなっています。個人消費の活性化による、これらの業種の回復が地域経済の景気浮揚には必要です。おかやま信用金庫は、前述の3業種も含め、地元岡山の全ての事業者様の力となるべく、引き続き全力で取り組んでまいりますので、よろしくお願いたします。



おかやま信用金庫
営業支援部

— 2017.5 —

〒700-8639 岡山市北区柳町1丁目11番21号
 TEL 086 (223) 7672 FAX 086 (226) 2288
<http://www.shinkin.co.jp/okayama/>
 E-mail: sien@okayama.shinkin.jp